

## リレーコラム 北の農学校より

ここ北海道、十勝の大地では、実りの秋も終盤を迎え、長く寒い冬を迎えるまでのつかの間の時を過ごしています。

今年の十勝は9月の平均気温が8月よりも高かったとのことで、異常な暖かさではありましたが、作物にとっては恵みの気候となりました。

さて、十勝の中心、帯広の北、約50kmのところには本別町という人口8千人の町があります。北海道では大豆、小豆など豆の町として有名ですが、その仙美里（せんびり）という素敵な名前の地区に私が勤務する北海道立農業大学校があります。

本校には将来の北海道農業を担うべき青年達140人余が集っており、実習を主体とした実践的なカリキュラムにより農業技術や経営管理を学んでいます。十勝という土地柄、学科は畜産経営（酪農・肉用牛）と畑作園芸経営の二学科で、学生の9割は農家子弟、卒業後の就農率も8割近い実績となっており、まさに貴重な担い手の育成という重責を担っています。

敷地は総面積240haで、うち草地や飼料畑など畜産関係の圃場が約60ha、普通畑が22haとなっており、乳牛の飼養頭数が約50頭、和牛が約40頭です。農場の運営は1年を通じてすべて学生が行っており、特に畜産学科では朝夕の給餌、搾乳等を1年365日、正月も交代で行っています。

本校の敷地は旧陸軍の軍馬補充部の跡地であり、開校当初は施設も軍馬補充部のものがそのまま使われていたようです。ここには戦前のロサンゼルス五輪における我が国で唯一人の馬術競技のメダリストで、金メダルに輝いた「バロン西」こと、西竹一（にしたけいち）陸軍中尉も勤務しており、今も当時の宿舎が農大の「仙風荘」という集会施設として残っています。西中尉はその後硫黄島で戦死されたとされており、クリントイーストウッド制作の映画「硫黄島からの手紙」にも登場しています。余談ですが軍馬補充部は本別町から足寄町にかけて約2万haの広大な敷地があったとのことで、足寄町にあった敷地の一部は現在、九州大学の演習林になっています。ここで育成された馬たちは中国大陸に送られましたが、帰ってきた馬はいないとのことで、本別町にはこうした馬たちの「鎮魂軍馬の碑」もあります。

現在の農大の校舎は、畜舎等も含めて平成9～11年度に約100億円をかけて全面改築され、レンガ仕様の近代的な建物になっています。

さて、本題の担い手の話に戻りますが、最近、北海道でも酪農家の減少に歯止めがかからず生産基盤の弱体化が危惧されているという話題をよく耳にするようになってきました。これまでは、離農された方の牧場を近隣の酪農家が引き継ぎ、規模拡大でカバーしてきましたが、だんだんカバーしきれなくなっているのかもしれない。農地の分散の問題もありますし、北海道でも経営者の高齢化は進行しています。

近年はコントラクターやTMRセンターなどの設立、さらには法人化の推進など、



加藤 和彦 (かとう かずひこ)  
北海道立農業大学校長

対応策も進んでいますが、酪農地帯では規模拡大の進展により、もともと集落人口が少ないところに、離農が進めば社会生活基盤そのものが維持できなくなることも危惧されています。生産基盤だけでなく生活基盤の維持といった観点からも一定の農家人口の確保が必要です。そのためにも6次産業化も含めた就農・就業対策が不可欠です。

一方で本校の畜産学科の学生の中には、農家子弟ではない学生や、農家子弟であっても次男、三男でお兄さんが後継者として家に帰っているため、卒業後は人工授精師や酪農ヘルパーなどとして就職した上で、将来の就農を目指す学生もいます。

本校では乳牛や和牛の飼養管理はもちろん、牧草やデントコーンの収穫、サイレージ調製（ロールサイレージ、バンカーサイロ）、たい肥散布など大型の作業機を駆使した作業も学生みんながこなしており、また、家畜人工授精師や削蹄師などの資格を取得し、簿記や経営分析などについても学んでいます。実際には、だからといってすぐに一人前の仕事をこなすことはなかなかできないようです。やはりひとりで担当する規模が学校とは違いますから。しかし、せっかくのこうした人材をうまく新規就農に結びつけていく仕組み作りが必要だと感じています。

最近酪農の法人などからの求人も来るようになりましたが、まだまだ就業条件等が他の求人と比べて整備されていないことなどから学生の反応は今ひとつです。「単純な労働力」としての求人ではなく、「将来の構成員」につながるような仕組みがあれば魅力が大きなものとなります。構成員ではなくても、何年かの経験を経てその地域の担い手育成組織と連携して新規就農のシステムに乗れるよう、明確な条件を示すこともいいかもしれません。いままでのように、いつ来るかわからない新規参入希望者を探すよりも、確実ではないでしょうか。

本校と同様の農業大学校は各府県にもあります。地域によって学科等は多少違いますが学習方法等は同じです。中には社会人を対象にしたコースを設置している大学校もあります。是非ご一考を。

校内は既に紅葉も終わり、落ち葉が風に舞っています。畑作園芸関係の学生はハウスのビニール外しなど冬に備えた片付けに追われています。デントコーン畑では春に備えて畜産の学生がプラウをかけています。その上空を北からやってきた白鳥たちが編隊を組んで飛んでいきます。雪が舞い落ちてくるのももう間近でしょう。



農大校舎とバンカーサイロ詰め込み作業風景